

KEIO MBA



慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Graduate School of Business Administration, Keio University

2013

LEARN TO LEAD

LEARN TO LEAD

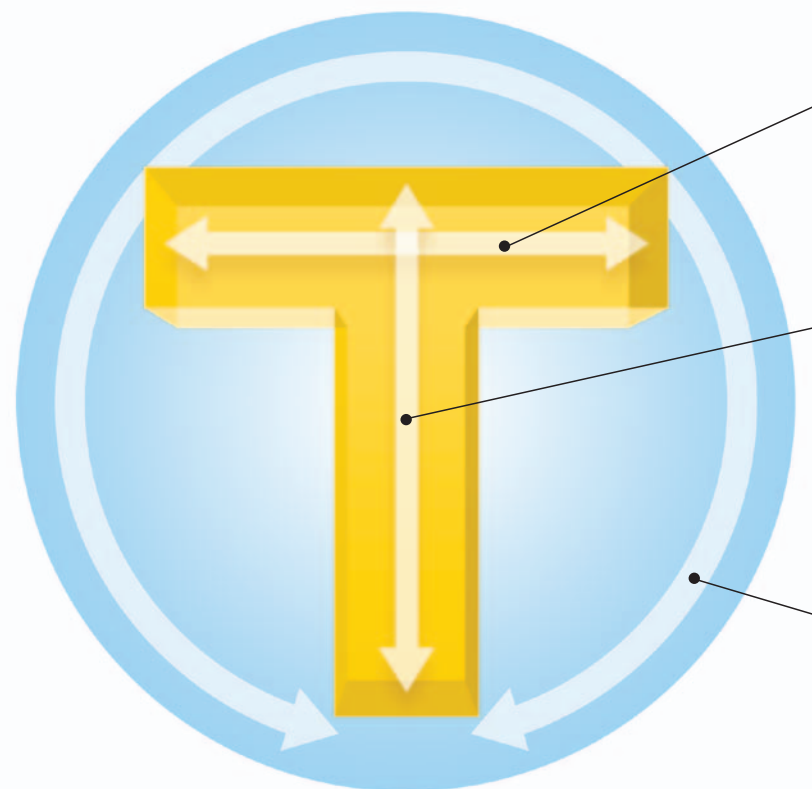
グローバル社会のビジネスリーダーとなるために。

1962年の創立以来、慶應義塾大学大学院経営管理研究科(KBS)は、慶應義塾伝統の「実学の精神」のもと、ケースメソッドによる実践的な教育を基盤として、ダイナミックに変化する現代のビジネス環境で新たな構想を作り実現していくビジネスリーダーを育成してきました。世界一線級の研究者である教員と、多様な職業経験と学歴を持つ学生たちとともに過ごす濃密な2年間。グローバル社会で指導的役割を果たすための資質を身に付け、リーダーとして必要な意思決定能力を磨く。これからの日本、そして世界のために、新しい社会を先導するビジネスリーダーを育成する。それがKBSの使命です。

KBS MBA = 教育の質² × 量²

不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、膨大な情報から本質を見抜いて戦略意思決定を行う。ビジネスリーダーには高度な情報分析能力と判断能力が要求されます。そして、自らの分析と判断に基づき、社会と組織を先導することのできる使命感や情熱、リーダーシップが必要です。KBSの、国際水準の教育の質と圧倒的な学習量によって、このような多くの素養を身につけることができます。1年次の基礎科目では、マネジメント能力の基盤となる8つの主要領域を実践的なケースメソッドで学び、総合演習科目でそれらを領域横断的・有機的に活用する方法を学びます。2年次には、ビジネス上の強みとなる専門能力を深化させるため、各自のキャリアプランに応じた専門科目群を履修しつつ、少人数制のゼミナールで問題発見・解決能力を磨きます。さらに、国際的なビジネス感覚を養うための各種国際プログラムを用意しています。

LEARN TO LEAD—KBSのカリキュラムは、リーダーとなるための幅広いマネジメントスキルと深い専門性、それらを総合し発展させるための方法論を提供します。



経営に関する基盤知識の獲得

主要8領域の基礎科目

総合演習科目

経営に関する各領域を幅広く理解する

特定領域の能力、知識の獲得

専門科目

ゼミナール

修士論文

国際プログラム

学生個々の興味と素質に応じた、将来のキャリア形成に役立つ専門能力と知識を深く学ぶ

リーダーとしての資質の獲得

ケースメソッドを中心とした実践的教育

使命感、強い精神力、深い洞察力、創造性、広い視野など、組織と社会のリーダーに必要とされる資質を磨く

慶應型ケースメソッド

日本におけるケースメソッドの先駆

ケースメソッドとは、80余年前にハーバード大学ビジネススクールが中心となって開発し、改良してきた実践的な経営教育の方法です。ケースメソッド授業は、実際の経営状況をまとめたケースを素材に、ディスカッションを通して新しい知恵を共創します。日本においてはKBSが初めて導入し、過去50余年間にわたり研究を重ね、日本のビジネス環境に適応した「慶應型ケースメソッド」として独自に発展させてきました。

「慶應型ケースメソッド」の強み オリジナルケースの開発と、ケース開発者による授業展開

KBSには、3,500余りのオリジナルケースの蓄積があり、さらに毎年100本程度の新作ケースが登録され、常に最先端の経営知見がアップデートされています。KBSのケースには、教員が企業経営の当事者にインタビューした、ありのままの出来事が書かれています。そこには、事実が記してあるだけでなく、教育の場で取り上げる訓練主題が含まれ、受講者を登場人物の立場に立たせ、その責任において意思決定を迫るように表現されています。そして、実際にそのケースを書いた教員が授業を展開していきます。

KBS Mission Statement

KBSは新たな構想を作り実現するリーダーを育成する。
 そのために、多様な学生がともに学ぶ喜びを知り、世界一線級の研究を発信し、
 実務経験と体系的知識を融合する場を提供する。

Keio Business School develops leaders who can envision and materialize original business concept.
 Here scholars and students of diverse backgrounds find enjoyment in learning together,
 deliver world-class research, and integrate academic theory with business experience.

沿革

- 1956 戦後日本の産業立て直し、近代化を推し進める経営者を育成すべく、ハーバード大学ビジネス・スクールと共に「第1回慶應・ハーバード大学高等経営学講座」を開講。
- 1962 「経営専門家の養成教育実施」というわが国教育制度上画期的な構想を目的に掲げ、日本初の大学ビジネス・スクールである慶應義塾大学ビジネス・スクールを設立。
- 1969 大学院レベルの長期プログラム、1年制教育課程を開講。
- 1978 専門的経営管理者の育成と経営管理諸分野における高度な研究の推進を目的とした、大学院経営管理研究科修士課程を開設。
- 1991 「実学」の理念とケースメソッドの有用性を理解し、大学院や専門研究機関で教育・研究に従事する人材を養成すべく、大学院経営管理研究科後期博士課程を開設。

KBSウェブサイトのご案内

<http://www.kbs.keio.ac.jp/>



KBSの最新ニュース、学生の活動、入試やオープンキャンパスの情報、ケースメソッド授業の動画など、さまざまなコンテンツを提供しています。

世界基準の教育品質保証と国際ネットワーク

KBSは、常に目標を世界のトップクラスに掲げ、高度な教育の質を確保してきました。教育品質の保証のため、日本で唯一、2大国際認証機関によるグローバル基準での客観的評価による認証を継続して得ています。また、世界規模の研究と教育に関する交流を推進するため、国際的なビジネススクールのネットワークに加盟し、共同研究・教員交流・学生の交換留学を積極的に行っています。



AACSB International
 Association to Advance
 Collegiate Schools of Business
 認証校 全世界 639校、アジア 32校、日本 2校



EFMD
 European Foundation for
 Management Development
 認証校 全世界 131校、アジア 20校、日本 1校



AAPBS
 Association of Asia-Pacific Business Schools
 アジア・大洋州地域130校のビジネススクールによる
 研究・教育水準向上を推進する協議会



PIM
 Partnership in International Management
 世界60校のビジネススクールが加盟する
 研究・留学ネットワーク

「独立自尊」のビジネスリーダーへ。

KBSが重視するのは、単なる経営技術の専門的教育ではありません。企業の進むべき方向を確立し、その目標の合理的実現に向かって各職務・部門の活動を最高度に発揮させる、「総合的管理能力」を育成するための教育・訓練です。授業の多くはケースメソッドで行われます。幅広い知識を得るだけでなく、教員・学生同士が相互に教え合い議論することを通じて、自身の意思決定に真摯に向き合い、かつ他者の考えを尊重する「独立自尊」のビジネスリーダーを目指します。

基礎科目

総合的経営管理能力の基本となる主要8領域を学ぶ必修科目

KBSでは、総合的経営管理能力の基本となる主要8領域を1年次に徹底的に学びます。そして、その方法は講義中心ではなく、ケースメソッドによります。それは、経営の原理原則だけに依存せず、そこからは予測できない要因も含めて自ら分析し合理的な意思決定を下す訓練をするためです。

■ 会計管理

経営の計数管理に不可欠な会計情報について、簿記や財務諸表等の基礎知識および財務比率や管理会計手法などの分析能力を身につけます。

■ 経済・社会・企業

人・組織をとりまく外部要因に対する理解を深め、外部環境変化に対する企業組織経営のあり方についての判断能力を養成します。

■ 経営科学

情報と論理的思考を駆使して経営課題の解決や意思決定の質を高める定量分析の具体的な方法論、および合理的な意思決定手法について学びます。

■ 財務管理

ファイナンスと経営財務の基礎、企業価値評価手法、資本コスト算定、経営戦略の手段としての財務戦略やM&A、企業再生等について学習します。

■ 組織マネジメント

経営者として組織をいかにマネジメントするか、「組織における人間行動(ミクロ組織行動)」と「経営における組織と戦略(マクロ組織行動)」の2つの視点から学びます。

■ 生産政策

企業活動において製品やサービスを提供する「生産・供給機能」とそのためのオペレーションに焦点を当て、課題を発見・分析・改善する視点を養います。

■ マーケティング

顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする、効果的マーケティング手法を学びます。

■ 総合経営

企業の経営政策・戦略上の諸課題について、トップ・マネジメントの視点に立つて戦略立案並びに実行を指揮するための方法論を学びます。

総合演習科目＝「ビジネス・ゲーム」

自身の経営管理能力のレベルを判断する

1年次に2泊3日の合宿形式で行われる「ビジネス・ゲーム」では、実際の日本の鉄鋼業をモデル化した模擬経営を行います。基礎科目で学ぶ概念や技能を駆使した企業間競争の展開を通じて、経営の各分野間の協調の重要性とマネジメントの役割についての認識を深めます。模擬経営は戦略策定の場であり、組織生成過程の体験の場であり、経営管理制度構築の場でもあります。また、組織における人間行動の本質を見る機会にも遭遇することになります。

「実学の精神」「独立自尊の精神」 にもとづく能力形成

KBSのカリキュラムにおいて徹底されているのは、福澤諭吉の「実学の精神」です。ケースメソッドを通じて知識を実際の経営現場での意思決定に昇華させ、ビジネスゲームやゼミナール、フィールドワークなどを通して組織全体のあり方、経営者としての自身のあり方について考えます。こうした学びを通じ、まさに日本のこれからのビジネス社会を牽引する「独立自尊」のビジネスリーダーを目指します。

「半学半教」の伝統を重んじる

KBSの教育方針で大切にされているのは、慶應義塾の創立から続く「半学半教」の伝統です。1年次の基礎科目はもちろん、2年次からの専門科目やフィールドワーク、ゼミナールにおいても学友・教員と議論を戦わせる機会が充実しています。こうして得た人的ネットワークは卒業後も自身を研鑽してくれる心強い支えとなります。

専門科目

多彩な専門科目を通じて専門性を強化する

専門領域を深めるための科目を選択し、修了に必要な単位数を取得します。KBSでは、実務家教員による科目やフィールドワーク科目など、実践的な経営課題を解決するために必要とされる年間60科目以上の多種多様な科目を提供しています。これ以外に慶應義塾大学他研究科・学部設置の科目も自由科目（修了単位に含まれない）として履修することができます。

※と表記のある科目は英語で開講します

■ 会計

- ・ 経営管理会計
- ・ 財務報告分析
- ・ タックス・プランニング
- ・ 日本における会計管理 ※
- ・ マネジメント・コントロール

■ 情報・意思決定

- ・ 経営科学と意思決定 ※
- ・ 交渉論
- ・ 情報と意思決定
- ・ 統計学入門
- ・ ビジネス統計
- ・ マネジリアル・エコノミクス
- ・ リスクマネジメントと危機管理

■ 組織マネジメント

- ・ 人的資源戦略
- ・ ストレス・マネジメント
- ・ 多国籍組織・戦略 ※
- ・ 日本における組織マネジメントI ※
- ・ ネットワーク・リーダーシップ
- ・ 不確実性と組織のマネジメント
- ・ マクロ組織論

■ マーケティング

- ・ 市場戦略論
- ・ 消費者行動
- ・ 日本におけるマーケティング ※
- ・ マーケティング・コミュニケーション論
- ・ マーケティング戦略
- ・ 流通論
- ・ ロジスティクス論 ※

■ 経営環境

- ・ 医療経済学
- ・ 技術戦略の経済学
- ・ 国際経済と新興ビジネス ※
- ・ 日本の経営環境 ※
- ・ ヘルスケアポリシー
- ・ ヘルスケアマネジメント

■ 財務

- ・ 金融機関経営
- ・ 行動ファイナンス
- ・ 財務理論
- ・ 日本における財務管理
- ・ 日本証券市場論

■ 生産政策

- ・ 生産システム設計論
- ・ 生産マネジメント
- ・ 日本における生産管理 ※

■ 総合経営

- ・ 企業戦略における技術と社会的インパクト ※
- ・ 競争戦略論
- ・ グローバル戦略経営論
- ・ 経営革新
- ・ 経営再建論
- ・ 経営戦略におけるアントルプレナーシップ ※
- ・ 戦略コンサルティング

■ 全分野共通

- ・ アジアビジネス・フィールドスタディ
- ・ 英語ビジネス・コミュニケーションI
- ・ 英語ビジネス・コミュニケーションII
- ・ 企業家論 ※
- ・ 企業倫理
- ・ 起業体験
- ・ 起業（インキュベーション）と法ワークショップ・プログラム
- ・ グッド・ビジネス・イニシアティブ
- ・ グランド・デザイン・プロジェクトI
- ・ グランド・デザイン・プロジェクトII
- ・ ケースメソッド教授法
- ・ 経営史
- ・ 経営実務講座
- ・ 経済性分析
- ・ 経営プロジェクト
- ・ 経営法学I
- ・ 経営法学II
- ・ 経済理論I
- ・ 経済理論II
- ・ 集中企業研究
- ・ 新事業創造体験
- ・ ベンチャーキャピタリスト養成I
- ・ ベンチャーキャピタリスト養成II



こんな科目があります

ベンチャーキャピタリスト養成I

なぜベンチャー立上げ作業は成功したり失敗したり一見不安定に見えるのか。フェイスブックなど新事業の成功条件は何か。またその前提として、①起業家として、②会社経営者として、③事業経営・マネージャーとして、④オペレーター・社員として、新事業立上げ活動、及び

資本組織としての企業（創立と発展の本質）を、どう理解すればよいか。それぞれの立場、変化する状況から考察しながら、経営者、起業家として活動できる力量を身につけてもらいます。

本講座は、NTVPIにおけるDeNA等の、キャズムを超える創業支援体験を踏まえ、ベンチャー創業活動、経営の実際を総合的、体験的に理解します。またVCファ

ンド設立契約実務、投資候補先の評価や、投資後の長期的関与の考え方と手法を、実体験を通じて学びます。講座では、最前線の現場で活躍するベンチャーキャピタリストが、実践的に講義します。上場ベンチャー起業家や、弁護士、会計士、司法書士、社労士などのゲストも随時招きます。さらにベンチャー企業訪問や株主総会出席、チーム活動および対外交流も行います。

マーケティング戦略

本コースは、具体的事例に基づいてマーケティング戦略や事業戦略を策定することをおして、現在進行する実務に直結した意思決定を行うことをねらいとして

います。受講生自身の意思決定能力について、「腕試しする」というスタンスで受講すること期待します。本コースは、前半をケースによるマーケティングのフレームワークに関する討論と、とりあげるテーマに関する講演ならびに受講生による事例提案（シーズ紹介）にあて、後

半をグループによるフィールドワークならびにコンサルテーション（プレゼンテーション）で構成します。最終の報告会は、とりあげるテーマの経営者もしくは企画担当、およびコンサルティングファームのコンサルタントの出席のもと開催します。

ヘルスケアポリシー

ヘルスケア分野（主に医療・介護）にかかわる政策と制度の体系、およびそれらの機能を学ぶための科目です。医療と介護のシステムは、①サービス提供体制と利用方法、②住民にサービス利用を保障する社会保障制度と社会福祉制度、③サービス提供に要する費用を補填する報酬制度、の3項目から成り立って

ます。いずれも一国の社会・経済の安定を支える基盤としてもっとも重要な社会資本と位置づけられます。

また、産業規模の大きさ、従事者人口の多さと今後の成長、この分野を支えるために住民が貢献する公的負担の額、次世代産業の技術シーズを生み出す可能性の高さなど、どれをとっても重い意味をもつ分野なのです。

人口の高齢化とともに、医療や高齢者ケアに対する

ニーズは増加の一途をたどる以上、医療や介護事業にたずさわる経営者、さらには生損保分野や業業界に属するビジネスリーダーのみならず、一般の企業人も政策と制度にかかわる幅広い識見をもつことが必要となるでしょう。加えて、この分野で育ってきたハードの技術、制度資本を含むソフトの双方とも、国際的な展開が期待されています。授業では資料を基にした質疑と討論によって、上記を深く理解させるように進めていきます。

グローバル経営における組織とリーダーシップを学ぶ。

KBSは、豊かな国際感覚を備え、国境や言語の壁を越えて活躍できるリーダーとなるための各種プログラムを用意しています。いずれも、世界レベルの研究教育機関である慶應義塾だからこそ実現できる、他校の追随を許さないものです。

国際単位交換プログラム

IP International Program

KBSは、1988年から世界各国のトップビジネススクールと単位交換協定を結び、1学期間の交換留学の機会を提供しています。2013年6月現在、協定校の数は36校。毎年多数の学生がこの制度を利用して海外のMBA候補生たちとともに学んでいます。

ダブルディグリー・プログラム

DD Double Degree Program

KBSでの1年次修了後、海外のビジネススクールで2年次を過ごし、所定の修了要件を満たすことでKBSと当該海外ビジネススクールから2つの学位(MBA)が得られる制度です。卒業後に海外での就職を視野に入れている方や、国際関係のキャリアを希望する方に特にお勧めです。

共同授業・共同研究

CKJ **CoBS**

2012年度から、「アジアビジネス・フィールドスタディ」科目(通称「CKJ」)が開講されています。中国の清華大学、韓国のKAISTと3校の共同開催授業で、日中韓3カ国のMBA生が一緒に特定産業研究と戦略策定を行います。また、KBSが世界5カ国のビジネススクールと結成した、ビジネスと社会に関する協議会「Council on Business and Society」(通称「CoBS」)の共同研究プロジェクトに参画する機会が用意されています。

アジア・オセアニア

Australian Graduate School of Management (AGSM), Australian School of Business, University of New South Wales (Australia) **IP**
School of Management, Fudan University (China) **IP** **CoBS**
Antai College of Economics & Management, Shanghai Jiao Tong University (China) **IP**
School of Economics and Management, Tsinghua University (China) **IP** **CKJ**
College of Business, KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) (Korea) **IP** **CKJ**
Yonsei University School of Business (Korea) **IP**
Asian Institute of Management (AIM) (Philippines) **IP**
NUS Business School, National University of Singapore (Singapore) **IP**
Singapore Management University (Singapore) **IP**
College of Management, National Taiwan University (Taiwan, Republic of China) **IP**
Sasin Graduate Institute of Business Administration of Chulalongkorn University (Thailand) **IP**

欧州

ESSEC Business School (France) **IP** **DD** **CoBS**
École des Hautes Études Commerciales de Paris (HEC Paris) (France) **IP** **DD**
Reims Management School (France) **IP**
EMLYON Business School (France) **IP**
WHU - Otto Beisheim School of Management (Germany) **IP** **DD**
School of Management, Technical University Munich (Germany) **IP**
University of Mannheim Business School (Germany) **CoBS**
SDA Bocconi School of Management (Italy) **IP**
IE Business School (Spain) **IP**
IESE Business School, University of Navarra (Spain) **IP**
The Stockholm School of Economics (Sweden) **IP**
London Business School (UK) **IP**

北米

Richard Ivey School of Business, The University of Western Ontario (Canada) **IP**
Schulich School of Business, York University (Canada) **IP**
UCLA Anderson School of Management (USA) **IP**
The University of Chicago Booth School of Business (USA) **IP**
Columbia Business School, Columbia University (USA) **IP**
Tuck School of Business at Dartmouth (USA) **IP** **CoBS**
The Fuqua School of Business, Duke University (USA) **IP**
Shidler College of Business at the University of Hawai'i at Manoa (USA) **IP**
Carlson School of Management, University of Minnesota (USA) **IP**
McCombs School of Business, The University of Texas at Austin (USA) **IP**
Leonard N. Stern School of Business, New York University (USA) **IP**
Kellogg School of Management, Northwestern University (USA) **IP**
Fisher College of Business, The Ohio State University (USA) **IP**
The Wharton School, University of Pennsylvania (USA) **IP**

南米

FGV São Paulo (Brazil) **CoBS**



半学半教を実践するゼミナールで、さらに専門を極める。

慶應義塾の「半学半教」の伝統を最も色濃く受け継ぎ、2年次の学びの中核に位置づけられるのがゼミナールです。

KBSのゼミナールでは、少人数による、密度の濃い議論を通じ、自ら問題を発見し最先端の理論や技法を駆使しながら問題解決を図る、といった形で修士論文の執筆が行われます。MBA課程の後半には高度な専門科目を選択履修するほか、本研究科内のゼミナールから一つを選んで所属し、各専門分野で研究者として高く評価されている指導教員の助けを得ながら修士論文を完成させます。各ゼミナールの定員は概ね4～7名であり、マスプロ教育では得られない非常に濃い密度のインタラクションが可能です。少人数ゆえに、修士論文の内容をめぐる議論に加え、主に経営技法を扱う通常のクラスではなかなか掘り下げられない世界観や歴史観、あるいは人生観、さらには文化と教養などについても話し合う機会が珍しくありません。また、ゼミナールの先輩後輩のつながりも強く、在学中に限らず修了後も互いの成長の刺激となる貴重な人脈を形成することができます。

ゼミナール紹介



小林 喜一郎 教授

戦略論・イノベーション

昨今、企業をめぐる競争環境が大きく変化し、今まで通用してきた方法論が大きく揺らぎ始めています。従来とは桁違いのスピードで起きる変化、膨大な市場ポテンシャルを持つ新興国への展開の必要性、新たな競合としての新興国巨大企業の台頭、経済活動と社会との親和性を重視したサステナビリティ経営の重視等、様々な企業経営上の 이슈が取りざたされる中、企業はグローバルな視点でのユニークなポジションの設定、その達成に向けての世界規模での資源の再配置、経営管理システムの変更、が求められています。こうした認識のもと、本ゼミナールでは戦略論をベースとし、絶えずグローバルな視点から、従来の業界枠を超えた新しい競争ルールをどう確立していくべきなのか、将来に向けてどうやってイノベーションを起こすべきか、を常に中心課題として議論しています。



福田 幸弘 2012年経営管理研究科入学 大手都市銀行 企業派遣

「一生付き合っている仲間を募集しています」。Competition & Strategyの権威である小林先生の想いに共感したこと、超優良企業を企業戦略の側面から考察したいこともあり、導かれるまま、小林ゼミの門を叩きました。毎回のゼミでは、先生やメンバーより様々な指摘・質疑・指導をいただくため、相当な準備が欠かせません。最近では、専門知識の獲得はもちろんのこと、自身に専門性という軸が生じるためか、KBSで得た数々の知識を一枚の大きなキャンパスにマッピングできているなど実感します。また、次々と意思決定を迫られる実践型のケース型授業との相互補完性に気づかされます。小林ゼミでは白熱した議論の後に、皆でランチを囲みます。そこには、私的な相談にも真剣かつ丁寧に指導くださる先生がおられます。ゼミで過ごす濃密な時間が信頼関係を醸成し、互いを「一生付き合える仲間」の関係へ導いてくれるのは、まず間違いのないことと感じています。

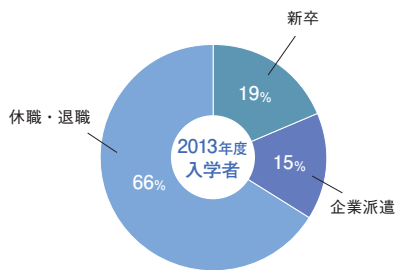
KBSでの濃密な2年間で新たな自分を発見する。

1年次は月曜から金曜までのほぼ毎日、終日グループ討論、クラス討論、講義があり、2年次はゼミナールと修士論文の執筆が学習の中核となります。これだけの時間を学友、教員と過ごすことで、一生続く人的ネットワークを築くことができます。こうして得たさまざまな出会いを通じて自身の世界を広げ、今まで気付かなかった能力・可能性を発見することになるでしょう。

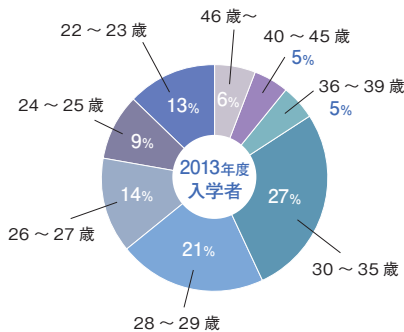
第1学年			第2学年		
1	2	3	1	2	3
4月～8月	9月～12月	1月～3月	4月～8月	9月～12月	1月～3月
基礎科目 (32 単位)			ゼミナール (6 単位)		
専門科目 (20 単位以上)					
入学合宿			国際プログラム		
			ビジネス・ゲーム合宿 (2 単位)		
			修士論文発表会		
			学位授与式		

学生プロフィール 多様性あふれるバックグラウンド

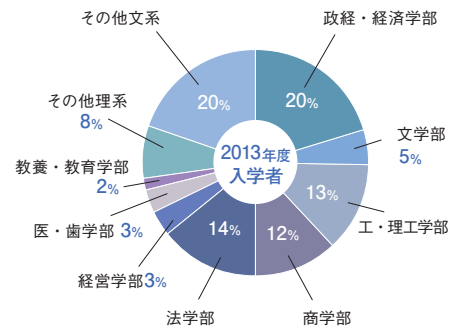
経歴



年齢



出身学部



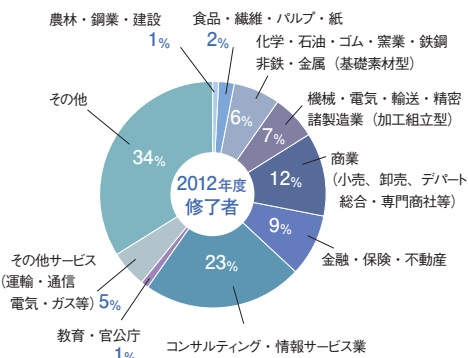
キャリア

キャリア形成をサポートする就職支援体制

KBSでは、修士課程修了後に就職・転職を考えている学生を対象に、学生のニーズに合ったきめ細かいキャリアサポートを行っています。入学後間もない段階から、キャリアについて具体的に考えるセミナーやガイダンスを提供しているほか、企業説明会の開催や個別のキャリア相談を通じて一人ひとりのキャリア形成を支援しています。

- 就職支援専門スタッフの配置
- 就職ガイダンス・キャリア形成支援セミナーの開催
- 企業説明会（随時）の開催
- 求人・インターンシップ情報の紹介
- 転職エージェントの紹介
- 修了生情報の提供

進路（業種別）



直近3年間の主な進路（順不同・就職の場合・企業派遣者は除く）

2010年度

- ▶ 三菱東京UFJ銀行
- ▶ シティバンク
- ▶ 明治安田生命
- ▶ GRIトレーニング&コンサルティング
- ▶ インテリジェンス
- ▶ ベイビュー・アセットマネジメント
- ▶ 日本IBM
- ▶ 資生堂
- ▶ パナソニック
- ▶ 凸版印刷
- ▶ 三菱商事
- ▶ NTT東日本
- ▶ Google Japan Inc
- ▶ 楽天
- ▶ 日本エリクソン 等

2011年度

- ▶ マッキンゼー&カンパニー
- ▶ ポストコンサルティンググループ
- ▶ ローランドベルガー
- ▶ アクセンチュア
- ▶ デロイトトーマツコンサルティング
- ▶ 博報堂コンサルティング
- ▶ NTTデータ経営研究所
- ▶ フロントティアマネジメント
- ▶ 日本IBM
- ▶ GE
- ▶ 三井物産
- ▶ 双日
- ▶ 日産自動車
- ▶ 住友スリーエム
- ▶ アマゾンドットコム
- ▶ アストラゼネカ 等

2012年度

- ▶ アクセンチュア
- ▶ アビームコンサルティング
- ▶ Google
- ▶ ジェイアイエヌ
- ▶ 大和証券グループ本社
- ▶ ドリームインキュベータ
- ▶ 日本能率協会コンサルティング
- ▶ 日産自動車
- ▶ 野村総合研究所
- ▶ 博報堂コンサルティング
- ▶ 三井住友信託銀行
- ▶ 三菱商事
- ▶ 楽天 等

修了生の声



隠塚 信介

ボストン コンサルティング グループ コンサルタント

1999年東京理科大学理工学部卒業
株式会社ミスミグループ本社退職
2010年経営管理研究科修了

大学卒業後、帝人株式会社にて約6年間MRとして勤務した後、株式会社ミスミグループ本社へ転職。ミスミでは新規事業を担当していましたが、ある会議の場で事業部長から「君の言っていることは仮説ではなく小説だ」と、論理性を欠いた事業計画に対して厳しい指摘をされたことがありました。そこで、彼らと「共通の言語」で話せるようになりたいと思い、夜間制ビジネススクールでいくつかの科目を単科受

後期博士課程

研究者への道

後期博士課程は、高等教育機関や研究機関の研究者として、あるいは研究・教育機関以外の各種専門機関において高度な専門家として活躍することを目指す方のためのコースです。出身大学大学院修士課程の専攻分野を問わず、経営学分野への旺盛な勉学意欲と問題意識を持ち、高度な学識と識見を積みたい方を歓迎します。

本研究科は全日制の大学院です。原則的に週日はキャンパスで授業に出席することが求められます。

カリキュラム

経営管理に関する専門科目を履修することに加え、9つの【研究教育分野】から自分の研究領域を2つ選択し、ケースの開発および事例研究論文を作成発表すること、そして総合試験の合格、プロポーザル作成、博士論文作成・合格により、博士(経営学)学位を取得することができます。



9つの【研究教育分野】

総合経営政策	マーケティング	生産政策
経営財務	経営環境	マネジメントシステム
マネジリアルエコノミクス	会計	組織行動

3年間のスケジュール

1年次	2年次	3年次
■ 2研究領域決定		
■ 指導教授決定		
■ 特別演習科目 ※		
■ 事例研究発表会		
■ プロポーザル審査		
■ 総合試験 (2研究領域)		
■ 博士論文審査		
■ 学位授与式		

※特別演習科目は、博士學位論文の指導と、その基礎となる理論研究、事例調査、各種演習を内容とする科目です

KBS同窓会

社中とのつながり

▶WEB <http://www.kbs-obkai.com/>

慶應義塾では、学生を塾生と呼び、卒業・修了生を塾員と呼びますが、これに教職員をあわせて一つのカンパニーの構成員であり、福澤諭吉はこれを「社中」という言葉で表現しました。

KBS同窓会は総会員数約3,500名を抱える大きな組織で、修了生の名簿を管理・公開しているほか、メールマガジンの発行、年1回の総会やMBAカフェ、ストラテジックインサイトセミナー (SIS) などのイベントを開催し、幅広い活動を行なっています。KBSの修了生は共に学生生活を過ごした同期と強い絆で結ばれるのはもちろんですが、KBS同窓会の活動を通じて縦のネットワークを形成します。また、慶應義塾の卒業・修了生の同窓会組織である「三田会」の一員として、業種、職種、国境を越えた有形、無形の価値を得ることができます。

講しました。しかし、ミスミの経営層の思考に迫りつづけるにはより大きなジャンプが必要であると感じ、KBSへの入学を決意しました。学位取得や人脈作りだけでなく、今までのキャリアの延長線上の自己啓発を超えた「非線形」での成長をめざして、全日制に通う覚悟を決めたのです。

入学時点より経営コンサルティングファームへのキャリアチェンジを志しており、熱心に勉

強に取り組みました。例えばファイナンスでは、経営者と議論できるレベルに達するために、ケースやノウハウ本を読むだけでなく、ミクロ・マクロ経済学や統計学など幅広い知識を身に付けるよう心がけました。アラカルト方式ではなく、体系立ったカリキュラムが組まれており、充分な時間を学業に費やすことが出来るのが全日制であるKBSの良さだと思います。2年目のサマーインターンで現職の採用が決まりま

したが、そのベースにはKBSでの学びを通じた自分自身の思考の進化があったように思います。また、KBS同窓会のネットワークを活用してコンサルタントとして活躍中のOBにお話を伺ったり、同じ志を持つ同期たちとケースインタビューの対策を練ったりできたことも有意義であったと思います。入社後も弊社内にはKBSアルumnナイが多く、何かと心強いことが多いです。

最先端の経営理論を、最高の教授陣から学ぶ。

人口の減少、為替レートの変動、成長著しい新興国との競争など、激変する経営環境に柔軟に対応できる高い能力を獲得するためには、経営の広い分野にわたる確かな基礎的スキルと高い専門性を獲得しなければなりません。それは一流の教員から学ぶことによって可能になります。KBSの教授陣は、常に最先端の経営理論を研究し、ビジネス界との交流を通じて現実の経営に応用しています。慶應義塾の伝統である実学の精神のもと、最高の教授陣から学び、自らも知識と経験を仲間と共有することにより、リーダーへの道を歩みます。

(2013年6月現在)

生産



河野 宏和 | KONO, Hirokazu | 教授 / エーザイチェアシップ基金教授 / 経営管理研究科委員長 / ビジネス・スクール校長
1980年慶應義塾大学工学部管理工学科卒業、1982年同大学大学院工学研究科修士課程修了、1987年博士課程単位取得退学、1991年工学博士（慶應義塾大学）取得。1987年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助手、1991年助教、1993年教授となる。2009年10月より、慶應義塾大学大学院経営管理研究科委員長、慶應義塾大学ビジネス・スクール校長を務める。1991年7月より1年間、ハーバード大学ビジネス・スクール訪問研究員。AAPBS（アジア太平洋ビジネススクール協会）会長、日本経営工学会副会長、TPM優秀審査委員、IEレビュー編集委員。
専攻分野：生産政策、生産マネジメント、生産管理論、経済性工学



坂爪 裕 | SAKAZUME, Yu | 教授
1989年慶應義塾大学文学部人間関係学人間科学専攻卒業、アンダーセン・コンサルティング（現：アクセンチュア）、（株）さくら総合研究所（現：日本総合研究所）を経て、2001年京都産業大学経営学部専任講師、2004年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師、2006年助教、2012年教授、2004年博士（経営学）（慶應義塾大学）取得。
専攻分野：生産政策、生産マネジメント

会計



太田 康広 | OHTA, Yasuhiro | 教授
1992年慶應義塾大学経済学部卒業、1994年東京大学より修士（経済学）取得、1997年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、2002年ニューヨーク州立大学バッファロー校スクール・オブ・マネジメント博士課程修了、2003年Ph.D. (management) 取得。2002年ヨーク大学ジョゼフ・E・アトキンソン教養・専門研究学部管理研究学専任講師、2003年助教を経て、2005年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教、2007年准教授、2011年教授。
専攻分野：分析的会計研究



村上 裕太郎 | MURAKAMI, Yutaro | 准教授
2000年上智大学経済学部経済学科卒業、2002年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了、2006年同後期課程修了（博士（経済学）（大阪大学））。名古屋商科大学会計ファイナンス学部専任講師を経て、2009年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。
専攻分野：分析的会計研究、税務会計



山根 節 | YAMANE, Takashi | 教授 / 松下幸之助チェアシップ基金教授
1973年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、1974年公認会計士第2次試験合格、同時に監査法人サンワ事務所（現・トーマツ）入社。1977年公認会計士資格取得。1982年慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。同年コンサルティング会社を設立して代表となる。1994年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教、1997年慶應義塾大学商学研究科博士課程修了（博士（商学））。1998年米国スタンフォード大学客員研究員。2001年経営管理研究科教授、2003年RJCカー・オブ・ザ・イヤー理事・選考委員。2006年より育児支援サービス産業研究会（経済産業省）座長その他公職を多数務める。
専攻分野：経営戦略、組織マネジメント、会計管理

財務



小幡 績 | OBATA, Seki | 准教授
1992年東京大学経済学部卒業、大蔵省（現財務省）入省、1999年退職。2000年IMF、2001年～2003年一橋大学経済研究所専任講師、2001年Ph.D. (経済学) (ハーバード大学) 取得。
専攻分野：企業金融、行動ファイナンス、NPO、政治経済学



齋藤 卓爾 | SAITO, Takuji | 准教授
2000年一橋大学経済学部卒業、2001年同大学大学院経済学研究科修士課程修了、2004年博士課程単位取得退学、2006年博士（経済学）（一橋大学）取得。2004年～2007年日本学術振興会特別研究員（PD）、2007年京都産業大学経済学部講師。2009年准教授を経て、2012年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。
専攻分野：コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、企業経済学



高橋 大志 | TAKAHASHI, Hiroshi | 准教授
1994年東京大学工学部卒業。1994年～1997年富士フィルム（株）研究員。1997年～2005年三井信託銀行（株）（当時）シニアリサーチャー。2002年筑波大学大学院修士課程修了。2004年同大学大学院博士課程修了（博士（経営学）（筑波大学））。2005年～2008年岡山大学准教授。2007年キール大学客員研究員。2008年より慶應義塾大学経営管理研究科准教授。
専攻分野：企業財務、ファイナンス、アセットプライシング

マーケティング



池尾 恭一 | IKEO, Kyoichi | 教授
1973年慶應義塾大学商学部卒業、1975年同大学大学院商学研究科修士課程修了、1978年博士課程単位取得退学。関西学院大学商学部専任講師、助教を経て、1988年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教、1994年教授。2005年10月同研究科委員長兼ビジネス・スクール校長に就任（2005-2009）。この間、1981年ベンシルバニア州立大学に、1988年ハーバード大学にそれぞれ客員研究員として留学。1991年慶應義塾大学より商学博士の称号取得。日本消費者行動研究学会会長（1998-1999）、日本商業学会副会長（2004-2006）、『マーケティング・ジャーナル』誌編集委員（1999-）、日本商業学会会長（2011-）。
専攻分野：マーケティング戦略、消費者行動、流通論



井上 哲浩 | INOUE, Akihiro | 教授
1987年関西学院大学商学部卒業、1989年同大学大学院商学研究科修士課程前期課程修了、1992年同後期課程単位取得退学、1996年Ph.D. (経営学) (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)。関西学院大学商学部専任講師、助教、教授を経て、2006年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。
専攻分野：マーケティング・マネジメント、マーケティング・サイエンス、マーケティング・コミュニケーション・マネジメント



坂下 玄哲 | SAKASHITA, Mototaka | 准教授
1999年神戸大学経営学部卒業、2001年同大学大学院経営学研究科博士前期課程修了（修士（商学））、2004年同後期課程修了（博士（商学））。上智大学経済学部経営学専任講師を経て、2007年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授となる。
専攻分野：ブランド・マネジメント、消費者行動



余田 拓郎 | YODA, Takuro | 教授
1984年東京大学工学部卒業。住友電気工業（株）勤務を経て、1998年名古屋市立大学経済学部専任講師。2000年同学部助教を経て、2002年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教、2007年教授。1999年博士（経営学）（慶應義塾大学）取得。商品開発・管理学会会長。
専攻分野：マーケティング戦略、ビジネス・マーケティング、事業戦略

組織・マネジメント



浅川 和宏

ASAKAWA, Kazuhiro

教授 / 三菱チェアシップ基金教授

1985年早稲田大学政治経済学部卒業、(株)日本興業銀行勤務を経て、1991年MBA(ハーバード大学)。1996年Ph.D.(経営学)(INSEAD)。1995年慶應義塾大学大学院経営管理研究科准専任講師。1997年助教授。2004年教授。同年MIT客員研究員。2005-2010年(独)経済産業研究所(RIETI)ファカルティ・フェロー。2011-2012年度文部科学省科学技術政策研究所(NISTEP)客員研究員。2009-2010年APJMI誌 Senior Editor。2009年より米Global Strategy Journal誌のAssociate Editor。米Journal of International Management, Journal of International Business Studies及びAcademy of Management Perspectives誌のEditorial Board。

専攻分野: 多国籍企業論, 組織理論, グローバル・イノベーション論



大藪 毅

OYABU, Takeshi

専任講師

1992年京都大学経済学部卒業。1996年京都大学大学院経済学研究科修士課程修了。1997年ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス産業関係学部留学。この間、新日本製鐵株式会社、(社)関西国際産業関係研究所に勤務。2003年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師。2006年より慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、2008年より慶應義塾大学医学部講師を兼任。2010年博士(経済学・京都大学)取得。

専攻分野: 人的資源管理論, 労働経済学, 医療管理学



清水 勝彦

SHIMIZU, Katsuhiko

教授

1986年東京大学法学部卒業、1994年MBA(ゲートマス大学エイモス・タックススクール)取得、コーポレートディレクション(プリンシプルコンサルタント)を経て、2000年Ph.D.(経営学)(テキサスA&M大学)取得。同年テキサス大学サンアントニオ校助教、2006年准教授(テニュア取得)。Academy of Management Journal, Strategic Management Journal, Journal of Management Studies, Journal of International Managementの編集委員(Editorial Board)を務める。2010年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。

専攻分野: 組織マネジメント, 企業変革, M&A, 戦略実行・変更



高木 晴夫

TAKAGI, Haruo

教授

1973年慶應義塾大学工学部管理工学科卒業、1975年同大学大学院工学研究科修士課程修了、1978年同博士課程単位取得退学。1984年ハーバード大学ビジネス・スクール博士課程修了、同大学より経営学博士号取得。1978年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助手、1985年助教授、1994年教授。

専攻分野: 組織行動学, 組織とリーダーシップ



渡辺 直登

WATANABE, Naotaka

教授 / トヨタチェアシップ基金教授

1975年名古屋大学教育学部卒業。東芝勤務を経て、1980年名古屋大学大学院教育学研究科修士課程修了。1985年イリノイ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了(Ph.D.)。南山大学経営学部助手、講師、助教授を経て、1998年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。

専攻分野: 組織心理学, 心理測定論

情報・意思決定



安道 知寛

ANDO, Tomohiro

准教授

2000年九州大学理学部数学科卒業、2002年同大学大学院数理学府修士課程、2004年博士課程修了(博士(数学))。2005年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師、2007年准教授。

専攻分野: 経営科学



大林 厚臣

OBAYASHI, Atsuomi

教授

1983年京都大学法学部卒業。日本郵船(株)勤務を経て、1996年Ph.D.(行政学)(シカゴ大学)取得。同年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師、1998年助教授、2006年教授、この間2000~2001年スタンフォード大学客員助教授、2001~2006年社会技術研究システム研究員、2007~2011年慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所上席研究員を兼任。

専攻分野: ミクロ経済学, 産業組織論



林 高樹

HAYASHI, Takaki

教授

東京大学工学部卒業、同大学大学院工学系研究科修士課程修了。日本興業銀行勤務後、コロンビア大学統計学部助教授を経て慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授、2009年教授。Ph.D.(統計学)(シカゴ大学)取得。

専攻分野: 計量ファイナンス・金融工学, 応用確率論

経営環境



姉川 知史

ANEGAWA, Tomofumi

教授 / 富士通チェアシップ基金教授

1977年東京大学経済学部卒業(経済学)、1980年同大学大学院経済学研究科修士課程(経営学)、1983年博士課程単位取得退学(経営学)、1983年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助手、1991年助教授、1999年教授。医学研究科委員(2005年より)。この間、1991年イェール大学経済学博士課程修了、経済学博士Ph.D.取得。

専攻分野: 企業経済学, 応用ミクロ経済学, 国際経営, 医療経済学



田中 滋

TANAKA, Shigeru

教授

1971年慶應義塾大学商学部卒業、1975年同大学大学院商学研究科修士課程修了、1980年同博士課程単位取得退学。この間、1975~1977年ノースウエスタン大学経営大学院修士課程修了。1977年大学ビジネス・スクール助手、1981年大学院経営管理研究科助教授、1993年教授となる。日本ヘルスサポート学会理事、日本介護経営学会会長、医療経済学会理事、日本ケアマネジメント学会理事、ビーフスHOPEジャパン副理事長、日本慢性疾患セルフマネジメント協会副理事長。

専攻分野: 経営環境, 医療政策, 高齢者ケア政策, 医療経済学, ヘルスマネジメント



中村 洋

NAKAMURA, Hiroshi

教授

1988年一橋大学経済学部卒業、1996年スタンフォード大学博士課程修了(Ph.D.(経済学))、1996年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師、1998年助教授、2005年教授。

専攻分野: 経済学, 産業組織論(ライフサイエンス、ヘルスケア、IT)、経営戦略論

総合経営



磯辺 剛彦

ISOBE, Takehiko

教授

1981年慶應義塾大学経済学部卒業、1981年(株)井筒屋。1991年経営学修士(慶應義塾大学)、1996年博士(経営学)(慶應義塾大学)。1996年流通科学大学商学部助教授、1999年教授。2005年神戸大学経済経営研究所教授を経て2007年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。この間、1997年スタンフォード大学ビジネススクールに客員研究員として留学。2008年(一財)企業経営研究所(スルガ銀行)所長。2010年よりAsia Pacific Journal of Management誌のAssociate Editor、Journal of International Management誌のEditorial Board。1999年中小企業研究奨励賞(商工総合研究所)、2004年及び2006年Winner: Best Paper Awards (Asia Academy of Management Conference)、2010年国際ビジネス研究会賞、義塾賞を受賞。

専攻分野: 経営戦略, グローバルマネジメント



岡田 正大

OKADA, Masahiro

准教授

1985年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。(株)本田技研工業を経て、1993年修士(経営学)(慶應義塾大学)取得。Arthur D. Little (Japan)を経て、米国Muse Associates社フェロー。1999年Ph.D.(経営学)(オハイオ州立大学)取得。2002年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授を経て現職。

専攻分野: 経営戦略論



小林 喜一郎

KOBAYASHI, Kiichiro

教授

1980年慶應義塾大学経済学部卒業。1989年慶應義塾大学経営学修士(MBA)。1989年より1993年迄、㈱三菱総合研究所・経営コンサルティング部主任研究員。1996年博士(経営学)(慶應義塾大学)取得。1997年4月より、ハーバード大学ビジネススクールへ留学。2000年、慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授、2006年教授。2001年~2006年フランスReims Management School客員教授。

専攻分野: 経営戦略論, 組織戦略論

入試概要

2014年度入学 修士課程入試概要

一般入試	秋期募集	春期募集
出願期間	2013年9月12日(木) 10:00 ~ 9月30日(月)	2013年12月26日(木) 10:00 ~ 2014年1月20日(月)
第一次試験合格発表	2013年10月9日(水) 13:00	2014年1月29日(水) 13:00
第二次試験 (面接試験・筆記試験)	筆記試験 2013年10月12日(土) 面接試験 2013年10月12日(土) または13日(日)	筆記試験 2014年2月1日(土) 面接試験 2014年2月1日(土) または2日(日)
第二次試験合格発表	2013年10月16日(水) 13:00	2014年2月5日(水) 13:00
入学手続期間	2013年10月16日(水) ~ 10月29日(火)	2014年2月5日(水) ~ 2月17日(月)

■ 定員 100名(秋期・春期合計)

■ 試験科目

- 第一次試験 提出された出願書類についての選考
- 第二次試験 面接試験および筆記試験(小論文・英語)

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 2,217,600円

■ 出願資格(一般入試)

- ▶ 大学を卒業した者および2014年3月卒業見込みの者
- ▶ 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2014年3月授与見込みの者
- ▶ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2014年3月修了見込みの者
- ▶ 文部科学大臣の指定した者
- ▶ 外国において学校教育における15年の課程を修了および修了見込みの者で、当該大学で履修した単位のうち本研究科が定める所定の単位について、優れた成績をもって修得したものと認められた者
- ▶ その他、本研究科が大学学部を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達した者

→ WEB <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/mba/application.html>

→ FAQ <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/faq.html>

2014年度入学 後期博士課程入試概要

出願期間	2014年1月16日(木) 13:00 ~ 2月3日(月)
第一次・第二次試験	2014年2月15日(土)・16日(日)
合格発表	2014年2月19日(水) 13:00
入学手続期間	2014年2月19日(水) ~ 2月28日(金)

■ 定員 8名

■ 試験科目

- 第一次試験 筆記試験(専門科目・英語) および書類審査
- 第二次試験 面接試験

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 1,012,600円

■ 出願資格

- ▶ 大学院修士課程修了者および2014年3月修了見込みの者
- ▶ 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者および2014年3月授与見込みの者
- ▶ その他、本研究科が修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認められた者

→ WEB <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/phd/application.html>

慶應義塾大学 奨学・融資制度

慶應義塾大学では、研究の意欲を持ち、経済的な理由により修学が困難で、かつ成績・人物ともに優秀な学生を対象に、次のような奨学・融資制度を設けています。

日本人対象

名称	給貸別	金額
日本学生支援機構奨学金	第1種 貸与(無利子)	修士:5万・8.8万/月 博士:8万・12.2万/月
	第2種 貸与(有利子)	5万・8万・10万・13万・15万/月
慶應義塾大学大学院奨学金	給付	60万/年
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	3万/月
指定寄付奨学金	給付	奨学金により異なる
民間団体・地方公共団体奨学金	給付・貸与	奨学金により異なる
慶應義塾大学教育ローン制度	融資	学期ごとの分納額の範囲内

留学生対象 (慶應義塾大学国際センター HPを参照してください)

名称	給貸別	金額
学習奨励費	給付	6.5万/年
慶應義塾大学大学院奨学金	給付	15 ~ 45万/年
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	3万/月
未来先導国際奨学金	給付	学費全額免除、生活費20万/月、他

→ WEB <http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku/system.html>

入試過去問題閲覧について

修士課程および後期博士課程入試過去問題は、日吉学生部大学院事務室にて閲覧できます(複写不可)。

窓口対応時間 平日 8:45 ~ 16:45

*土曜日・日曜日・祝日・義塾が定めた休日および事務室の休業期間中は閉室となります。

*身分証明書をご持参ください。事務室にて閲覧となります。


*8月11日~8月17日および12月28日~1月5日の期間については、閉室となります。

お問い合わせ

慶應義塾大学 日吉学生部 大学院経営管理研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

Tel : 045-564-2441 E-mail : gakukbs@info.keio.ac.jp

 KeioBusinessSchool1962

 KBS1962

<http://www.kbs.keio.ac.jp/>